

令和2年度吾妻地区 人権教育指導者研修会・社会教育委員研究集会

内 容：障害平等研修**講 師：DET群馬(代表) 飯島 邦敏 氏**

令和2年9月16日(水)、各町村の社会教育委員を対象に「人権教育指導者研修会」を開催し、身の回りに存在する「障害を理由とした差別」に気付き・考え・行動できるようにするための「障害平等研修」を行いました。本来、グループワークにより参加者と一緒に対話しながら学ぶ「発見型学習」の研修ですが、新型コロナウイルスの感染予防対策として、ファシリテーターの発問に対する自分の考えをワークシートに記入し、それを交換しながら意見共有を図りました。近距離での会話を控え、離れた場所からマイクを通して自分の気付きや考えを発表し合うことで、リスクを軽減しつつ互いの考えを深めることができました。

DET群馬のファシリテーターによる「障害平等研修」は、郡内の小中学校でも人権週間を中心に開催されています。「障害は周りの環境をみんなで変えていくことで解決していける」という、「障害の社会モデル」(心のバリアフリー)の大切さに気付き・行動しようとする意識が高まる研修として、とてもオススメです。詳細については生涯学習係までお問い合わせください。



紙面を活用した情報共有の様子

県民カレッジ・オープンキャンパス

内 容：自分のオススメ本を紹介しよう**講 師：県立図書館職員****第1回：本の紹介方法を知ろう 令和2年12月3日(木)**

立松和平さんの「海のいのち」(ポプラ社)を用いて、ミニ読書会を体験しました。小学校6年生の国語の教科書に載っている話ですが、人生経験を重ねた参加者が改めて読んでみるといくつもの発見があり、大変盛り上がりました。読書会に決まった形はありませんが、作者で読む、作品で読む、テーマで読む、好きな作品を読むなど、いくつかのパターンがあります。読書というと個人の行いという印象ですが、複数人で読むとまた異なる楽しみ方が生まれることがわかりました。

第2回：百科事典の使い方 令和2年12月10日(木)

ネット検索で何でも済む時代ですが、あえて百科事典の使い方を学び、その感想を伝え合いました。「柱」「つめ」「背」など、事典を使う上で必要な用語を学び直し、百科事典を使った問題作りや答え探しなどに挑戦しました。かつて多くの家庭に見られた百科事典も、今や図書館などで見かけるだけですが、百科事典を開いてみると意外な発見があるかもしれません。

第3回：本を紹介してみよう 令和2年12月22日(火)

ビブリオバトル(書評合戦)をやってみる予定でしたが、新型コロナウイルスに伴う警戒度の引き上げにより資料配付のみとなりました。群馬県でも高校生によるビブリオバトルが開催されて人気となっています。



本の紹介方法を知ろう「ミニ読書会」